

令和元年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

《平成 31 年 1 月～令和元年 12 月》

昨年度の報告書に含めなかった平成 31 年 1～3 月分も今回掲載しています。今年度は、昆虫類の田中委員と共同で、野母崎樺島町(樺島)の昆虫類・海岸動物類のファウナ調査を主に実施しています。そのため、樺島での調査回数が多くなっています。樺島の調査結果は、別途取りまとめて、報告書として長崎市へ提出する予定です。

○野母崎樺島町(樺島)：1 月 14 日

野母崎樺島町の大漁橋を渡って右側にある砂浜で打上貝等の調査を実施後、田原地区にある地下ダム周辺の昆虫類調査を行いました。打上貝等は、本地域が県内でも対馬暖流の影響が強い場所に位置するためか、タカラガイ科を中心に南方系の種類が多く確認されました。また、地下ダムへ流入する田原川ではオニヤンマ、アサヒナカワトンボ、シオカラトンボなどの幼虫が確認されました。

○野母崎樺島町(樺島)：2 月 4、24 日

同町の漁港周辺部の海岸にて打上貝等の調査を実施後、田原地区の海岸に移動し、同様に打上貝等の調査を実施しました。1 月 14 日に行った場所に比べ、調査範囲が狭いこともあり、確認種は少ない状況でした。漁港にあった漁具の一部に外来種であるムラサキイガイの付着が確認されました。



調査場所の状況



エボシガイ(打上)



スクミリンゴガイ(打上)



ヒトハリザトウムシ(死体)



タヌキ(目撃)

○野母崎樺島町(樺島)：3月2日

野母崎樺島町の大漁橋を渡って右側にある砂浜で打上貝等の調査を実施後、樺島灯台と田原への分岐点手前付近で、昆虫類調査を行いました。打上貝は、アケガイなど、他の地域ではあまり見かけない種を確認しました。昆虫類は、まだ早春であるためか種数もあまり多くない状況でした。この日の調査では196種を確認しています。

○野母崎樺島町(樺島)：3月30日

樺島南岸の桃瀬西側にある海浜部で打上貝等の調査を実施後、その周辺部および地下ダムで、昆虫類を中心とした調査を実施しました。3月上旬と異なり昆虫類の活動も活発になっており、比較的多くの種を確認する事ができました。打上貝は、3月2日の調査に比べ種数が少ない状況でしたが、ベッコウイモの打上が目立っていました。昆虫類は、水生種では、キベリクロヒメゲンゴロウなどが確認できていますが、冬季に小雨だった影響で溜池が干上がっていたため、水生昆虫類の越冬個体がイノシシやタヌキにより捕食されたようで、確認した数が少ない状況でした。湿地性のイチゴハムシ、ジュンサイハムシ、ブロンズクビナガゴミムシは多産していました。陸生種は、発生初期と思われるベニカミキリをはじめ、アシフトハナアブやアトボシハムシが林縁部を飛翔しているのを確認できました。また、外来種のモンクチビルテントウも1個体確認できました。本種は、1998年に沖縄に侵入が確認された後、年々北上している状況のようです。県内でも、最近は普通にみられるようになっています。下の画像は3月調査時のものです。



調査場所の状況



調査場所の状況



シマメノウフネガイ(外来種)



アケガイ(打上)



ヤサガタムカシタモト(打上)



調査場所の状況



エグリヅマエダシャク



クロスジホソサジヨコバイ

○野母崎樺島町(樺島)：4月6日

野母崎樺島町の大漁橋を渡って右側にある砂浜で打上貝等の調査を実施後、樺島灯台へ向かう途中の道路脇2ヶ所で昆虫類調査を行いました。打上貝は、岩礫性のナガサキニシキニナやマルベッコウバイなど、106種を確認できました。昆虫類は、3月に比べると種数が多くなり、ウスアヤカミキリやツマキチョウなど97種を確認しました。その他の分類群も合わせるとこの日の調査で計220種を確認しました。

○野母崎樺島町(樺島)：4月20-21日

4月6日と同じ地点の砂浜と地下ダム周辺、オオウナギ井戸南部の山中にある金刀比羅神社付近の3ヶ所で調査を実施しました。20日は砂浜付近と地下ダム、21日は地下ダムと神社の調査を行っています。砂浜では打上貝を中心とした調査、20日の地下ダム付近では、サナギ粉を用いたピットホールトラップ(PT)とライト付きの吊り下げ式フライトインターセプトトラップ(FIT)を設置し、翌日回収しました。21日はタモ網を用いた、湿地での調査も実施しています。残念ながら、PTはタヌキによるものと思われる被害を受け、生物種の確認をできませんでした。FITも時期的に早かったためか、確認種は少数の種のみでした。両日合わせて337種を確認することができました。下の画像は4月調査時のものです。



調査場所の状況



調査場所の状況



ハマベオオヒメサビキコリ



調査場所の状況



コオイムシ



ヒラマキガイモドキ



オオマルケシゲンゴロウ



ブロンズクビナガゴミムシ



イヌビワシギゾウムシ

○野母崎樺島町(樺島)：4月27日

20-21日に実施した金刀比羅神社付近を中心に、ビーティング、スウィーピング、スプレーイングなどを用いて昆虫類の調査を実施しました。また、地上置きFITを5ヵ所設置しました。トラップ設置に時間を要したため、確認種も114種とやや少なめでした。この場所は、樺島ではやや古めのシイ萌芽林であり、立ち枯れ等も散見されます。そのため、立ち枯れに生息する昆虫類も今回含まれています。

○野母崎樺島町(樺島)：5月2日

海浜部で打上貝、タイドプールの水生動物調査を実施後、地下ダム周辺部や金刀比羅神社周辺部で昆虫類の調査を実施しました。水生動物のうち、貝類は打上貝を含め、巻貝類113種、二枚貝類22種を、甲殻類は10種を確認できています。昆虫類は、共同で実施している田中委員の結果を含め、183種を確認しています。その他の確認種を含めると、346種でした。

○野母崎樺島町(樺島)：5月4日

19時30分から22時まで、金刀比羅神社付近で灯火採集を実施しました。蛾類を中心に50種を確認できています。

○野母崎樺島町(樺島)：5月12日

地下ダムと金刀比羅神社周辺、お大師様(古町)一帯で、昆虫類の調査を実施しました。お大師様一帯にはクヌギの小規模な伐採跡があり、トラカミキリ類数種を確認できています。全部の確認種は159種でした。

○野母崎樺島町(樺島)：5月29日

設置していたFITの回収、再設置を実施しました。FITには、オオヒラタシデムシ、センチコガネ、クロシデムシ、ハイイロハネカクシなどが多く確認できています。また樺島灯台付近、唐船岳、沖ノ島南部の3ヵ所にてビーティングと、目視による昆虫類の調査を実施しました。陸生の昆虫類を中心に144種を確認できています。ヤブニッケイの黒穂病菌瘻(きんえい)に生息するカクチビキカワムシが、本菌瘻の中から確認できました。5月調査時の画像は、次のページに掲載しています。

○野母崎樺島町(樺島)：6月1日

古町のお大師様周辺での陸生昆虫類を、地下ダムでの水生生物調査を実施後、電波等付近で夜間、灯火採集を実施しました。確認種は、全部で225種になります。主な確認種は、水生昆虫のフタスジモンカゲロウ(成虫)、シマアメンボを田原川で、ヒメマルミズムシ、マルヒラタガムシ等を地下ダムで、グンバイムシ類を捕食するグンバイカスミカメをヤブニッ

ケイの樹木から確認しています。



調査場所の状況



チビヒョウタンヒゲナガゾウムシ



マキシジコミミガイ



調査場所の状況



ヤナギハムシ蛹



キベリクロヒメゲンゴロウ



タデマルカメムシ



灯火採集



ヒメリンゴカミギリ



キイロナガツツハムシ



調査場所の状況



ヨツボシケシキスイ



調査場所の状況



コシマゲンゴロウ



ドブシジミの一種

○野母崎樺島町(樺島)：6月8日

地下ダムの横にある転石海岸にて、そこに生育するハマゴウなどの植物に飛来する昆虫類や、地下ダム周辺でのビーティングを実施しました。また、設置していたFITの回収も同

時に行っています。この日の確認種は 150 種でした。主なものとしては、ネムノキに依存するネムノキナガタマムシやナガチビトビカスミカメ、FIT で獲られたコエンマムシです。

○野母崎樺島町(樺島)：6月22日

FIT の回収、砂浜海岸での打上貝の調査および地下ダム横の公園で夜間灯火採集を行いました。灯火採集では、ヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、シロスジカミキリなど、大型の昆虫の飛来がありました。下の画像は6月調査時のものです。



フタスジモンカゲロウ



ヤツメカミキリ



ゲンバヤカスミカメ



調査場所の状況



タヌキ



ヤブヤンマ



灯火採集



ヒラタクワガタ

○野母崎樺島町(樺島)：7月6日

樺島港周辺の海岸動物調査と、昆虫類の灯火採集を田中委員と共同で実施しました。樺島港内の漂着ゴミの中から、フジテガニを1個体確認しています。長崎市では大村湾に面する海岸に次ぐ2ヶ所目の産地です。夜間の灯火採集では、地下ダムに生息することが確認されている、ガムシ科やミズムシ科等の水生昆虫類の飛来や、セスジカクマグソコガネ、キュウシュウカクマグソコガネ、*Microchaetes* 属の一種（マルトゲムシ科）などの甲虫類も確認されました。*Microchaetes* 属の一種は、近年全国的に分布を拡大している種で、コンクリートの間隙にあるコケ類などに依存しているようです。長崎市内では初記録と思われます。下の画像は7月調査時のものです。



フジテガニ



ヒメベンケイガニ



マルトゲムシ科Microchaetes属



コビトウラウズ



セスジカクマグソコガネ

○琴海 戸根原町 土井ノ浦①：7月15日

以前、イドミミズハゼの生息が確認された場所で、今回も1個体を目撃することができました。残念ながら撮影前に逃げられてしまったため、画像がありません。本場所ではムシロガイの死殻が比較的多く見付き、調査場所周辺に生息するものと思われます。

○琴海 戸根原町 土井ノ浦②：7月15日

以前、ヒロクチカノコなどを確認していた場所でしたが、イノシシ類の土耕跡が酷く、今回は確認する事ができませんでした。オカミミガイ科も確認できず、小規模な水路ではあるものの、以前は貝類の貴重な生息地の一つでしたが、残念ながら現在は壊滅的な状況となっています。

○野母崎樺島町(樺島)：8月11、14、24日

樺島西側にある砂浜海岸の打上貝を中心とした海岸動物調査と地下ダム一帯の昆虫類の調査を実施しました。確認種は、11日と14日を合わせて283種、24日が136種でした。レッドリスト等掲載種は、コベルトカニモリ、テングニシ、ヒラマキガイモドキ、ヤマトヒメアワモチ、チョウトンボ、コオイムシ、ドジョウなどです。ヤマトヒメアワモチは、長崎市では記録が少ない種と思われます。外来種は、シマメノウフネガイ、ムラサキイガイ、オカダンゴムシでした。

○松尾川河口付近、池田川：8月14日

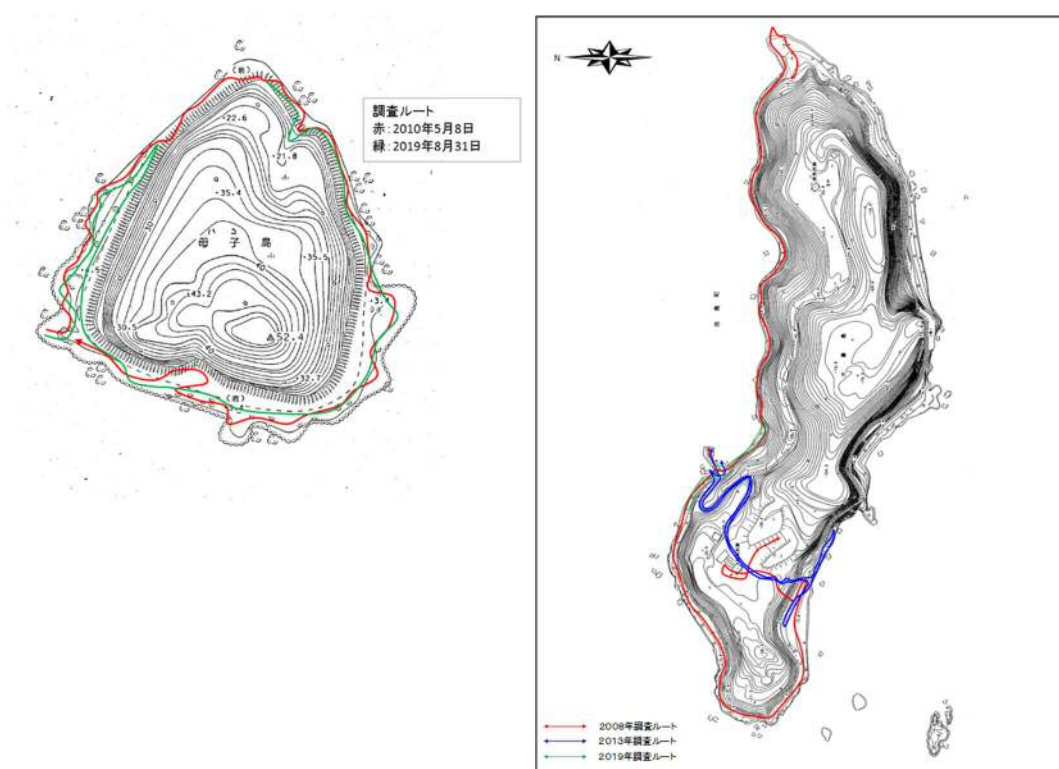
松尾川(旧野母崎町)と川原大池に流入する池田川で調査を実施しました。前者は、流域

の大半が涸れ川で、淡水性の種をほとんど確認できませんでした。海岸部でナガミミズハゼなどを確認できています。

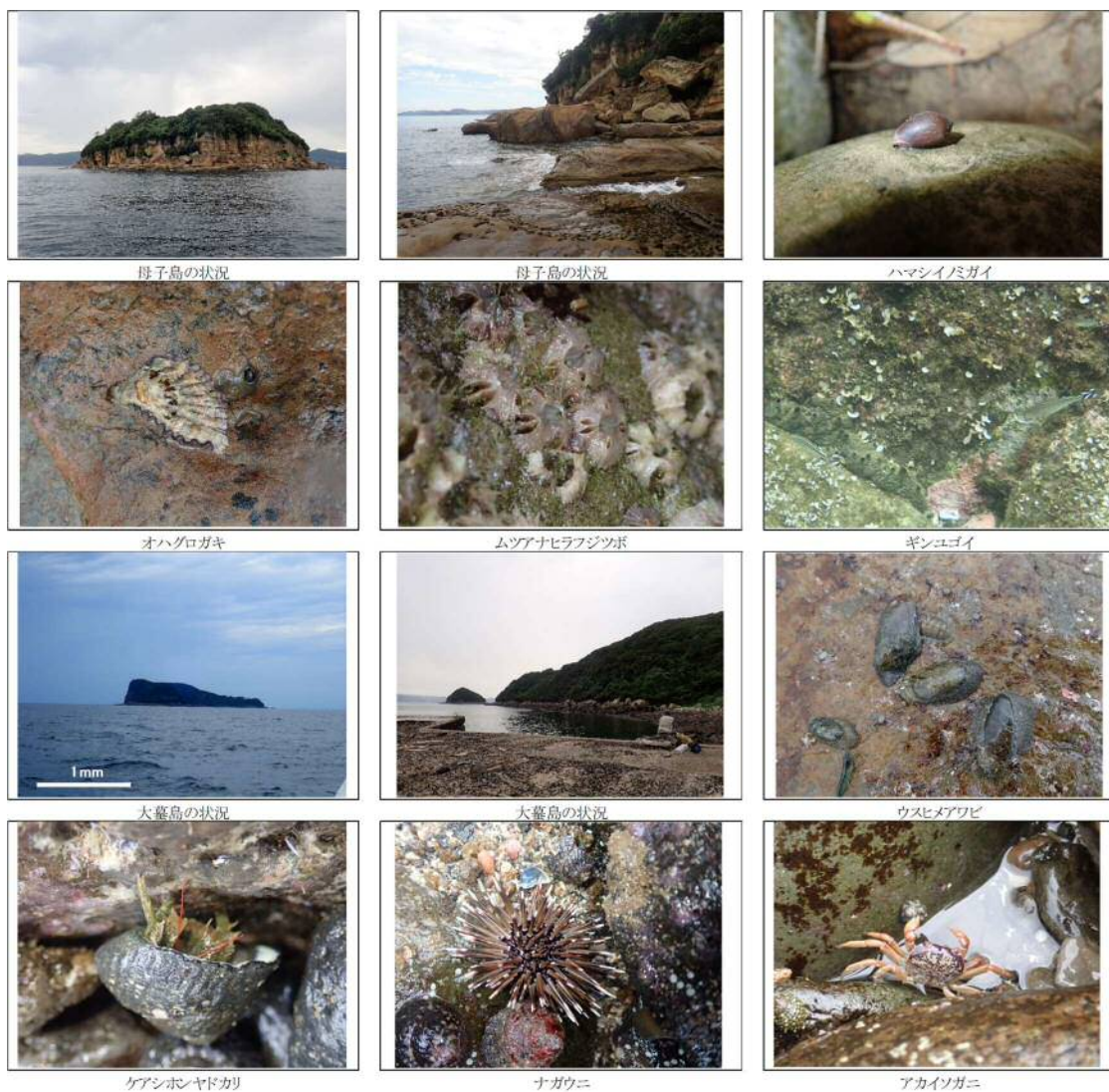
池田川では、大池流入付近でニホンウナギ、ウキゴリ、オオアメンボ、スクミリングカイなどを確認しています。特にニホンウナギは、全長 70cm 程の大型個体でした。

○母子島・大墓島（無人島調査）： 8 月 31 日

両島とも海岸部を中心に調査を実施しました。前者は、海岸部の多くが砂岩質であるため、脆く、付着・固着動物にとって生息にくい基質と思われました。そのため確認種も少なく、54 種であり、2010 年に行った調査結果を加えても 90 種です。一部、降雨の影響で、以前作られた堰に淡水が溜まっていたが、通常は水がほとんど無いようで、ベンケイガニのみが確認できました。後者は、過去 2 回の調査に比べて、堤防周辺のみ調査範囲が限られましたが、大潮干潮時と相まって、116 種を確認することができました。過去の確認種を含めると 166 種になります。



母子島（左）と大墓島（右）の調査ルート



○野母崎樺島町(樺島)：9月7日

地下ダム付近で、灯火採集を田中委員と共に実施しました。確認種は、カメムシ類、甲虫類を中心に106種で、オサムシ科（ゴミムシ類）、ヨコバイ類、カスミカメムシ類、ナガカメムシ類が多く飛来してきました。RDB等に掲載されている、コカブトムシが1頭飛来したことが特筆されます。

○野母崎樺島町(樺島)：9月23日

23日は、台風の通過直後ということもあり、海産動物の打上が多いと思われたため、海浜部の調査を実施しました。概ねこれまで確認した種がほとんどでしたが、タツナミガイ、シワガザミ、オオアカハラ、カコボラなど、潮下帯に主に生息する種を確認することができました。また、海浜部の地形が変わっていたことから、台風等で本地域の海浜部に生息する昆虫類は多大なる影響を受けているものと思われます。地下ダムでは、ミズオオバコなど希

少な水草も確認され、良好な環境が維持されていました。田原川では今年初めてトゲナシヌマエビを確認しています。また陸域では、迷蝶であるリュウキュウムラサキを1個体確認できました。本地域は以前より迷蝶が飛来することで有名ですが、今後も各所で確認されられると思われます。下の画像は9月調査時のものです。



○西出津町：10月6日

海浜部の打上貝を中心に調査を実施しました。台風の影響により、漂着物等でハマゴウ群落が荒れている状況でした。昨年まで確認できていたハマベオオヒメサビキコリは、今回確認できていません。搜索できなかった堆積した流木等の漂着物の下などに生息している可能性もあることから、今後も継続的に調査を行う予定です。打上貝等の確認種は、103種で、主にキサゴ(県 NT)、カニモリガイ(県 VU)などが中心となっています。

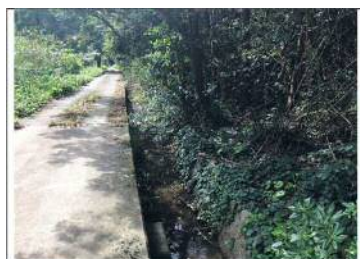
○野母崎樺島町(樺島)：10月20日

地下ダム及び田原川を中心に調査を実施しました。水生昆虫類を主として、周辺の陸上昆虫類も合わせて調査を行っています。確認種は、111種で、秋季になり、成虫が出現する種類が少なくなっているようです。田原川は、冬季に涸れ川となることがあるため、1cm以上の中・大型種が少ない状況でした。

○小江町 小江川河口付近：10月20日

河口部に打ち上げられている貝類や汽水性種を中心に調査を実施した。確認種は、88種でした。レッドリスト等掲載種は、キサゴ(死殻)、フネアマガイ(市 CR)、カニモリ、ガイ(死殻)、フトヘナタリ(市 NT、県 NT、国 NT)、タケノコカワニナ(死殻、市 VU、県 EN、国 VU)、ムシロガイ(死殻、市 NT、県 VU、国 NT)、ハイガイ(古い死殻、市 EX、県 CR、国 VU)、ハクセンシオマネキなど15種を確認することができました。次の画像は10月調査時のもので

す。



野母崎樺島町田原川周辺



ルリウラナミシジミ(野母崎樺島町)



小江川河口部付近



ニホンウナギ(小江川)



クロホシフエダイ幼魚(小江川)



フネアマガイ(小江川)



タケノコカワニナ(小江川河口打上・死殻)



ムシロガイ(小江川河口打上・死殻)



ハイガイ(小江川河口打上・古死殻)

○野母崎樺島町(樺島) : 11 月 3 日

海浜部の打上貝等と、林縁部の昆虫類調査を実施しました。打上貝では、小型種を中心に実施し、カセンチドリ、マクスジコミミガイなど 138 種を確認しました。昆虫類は、94 種を確認しましたが、ほとんどが小型の種であり、気温の低下に伴い、成虫の出現種が減少している状況でした。

○野母崎樺島町(樺島) : 12 月 7 日

樺島の中でも調査を実施していなかった新町東側海浜部の打上貝等の調査と、樺島中央部西側で陸上昆虫類の調査を実施しました。打上貝等海岸動物は、149 種を確認しましたが、これまで実施してきた西側の海岸との出現種の差を確認することはできませんでした。確認種の主なものは、ツタノハ、タツマキサザエ、ヤサガタムカシタモト、オミナエシダカラ、キンシバイ、ソメワケオトメフデ、ヒラスズキ(死体)などです。



野母崎種島町



ハマダンゴムシ



コカマキリ



カセンチドリ



マキシジコミミガイ

11 月調査時画像

昆虫類は、時間的な制約もあり、36 種のみでした。この中ではカメムシ類の小型種が多く確認されました。主な確認種は、ベニキジラミ、ハナダカカスミカメ、ヒメマダラカモドキサシガメなどです。次の画像は 12 月調査時のものです。



調査地点(礫質海岸)



調査地点(転石海岸)



ツタノハ



調査地点



ヒメマダラカモドキサシガメ



ハナダカカスミカメ



ベニキジラミ